第 180 回 誘電絶縁材料技術委員会議事録（案）
日時：2005 年 12 月 13 日（火）13:00-16:00
場所：電気倶楽部　第３会議室（新有楽町ビル）

出席者（順不同、敬称略）：岡本委員長（電中研）
杣(日立電線)、中坊（日新電機）、中野氏（東芝、清水委員代理）、鈴置委員（名大）、岡本（富士電機）、武藤（三菱電機）
幹事：内田（中部電力）、田中（武蔵工大）、
幹事補：岡下（昭和電線）、西川（芝浦工大）
委任状：礒嶋　茂樹、伊藤　進、小﨑　正光、本城　宏昌、水谷　照吉、岩本　光正、　福永　香

配布資料：
番号なし　　第 179 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録案
180-1　　第 66 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
180-2　　誘電・絶縁材料技術委員会委員名簿
180-3　　環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会議事録（第 4~7 回）
180-4　　高分子材料と放射線の相互作用評価技術調査専門委員会設置趣意書（案）
180-5　　H18 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（0 次案）および調査専門委員会フォローシート
180-6　　2 月国際会議報告および学際分野関連＆技術委員会開催(案)
180-7　　誘電・絶縁材料技術委員会の再編について
180-8　　2006 年度家田賞、矢作賞投票結果

議事：
１．前回議事録について
第 179 回議事録案を西川幹事補が読み上げ、承認された。

２．資料 180-1 について
A 部門運営委員会報告が岡本委員長よりなされた。
- IEEE と同様のエディター制度を導入。→導入が決定。各技術委員会よりアソシエイテッドエディターを選出する。迅速で安くなる。（鈴置委員）
- マグネティックス技術委員会から提案の若手奨励のための研究奨励賞が承認された。他委員会にても参考とされたい。本技術委員会でも犬石、家田、矢作賞等があるが、若手向けは無いので検討したい。
- 卓越技術 DB について。→推薦書の改訂中。12 月末までに本人のチェックも含めて進める。（田中幹事）
- 技術委員会活動資金として、第 5 回ナノ界面制御（技術委員会主催、小野田委員）、電力機器絶縁診断の（穂積委員）の２件の申請が承認された。
- 解散報告書（ナノコンポジット、ケーブル・電気機器のオンライン計測 2 件）承認。

・ 新規調査専門委員会として、屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能調査専門委員会（本間委員)、ナノコンポジット誘電体の界面現象と応用技術調査専門委員会（田中委員）の２件が承認された。
・ 単行本出版について、プリント基板（山野委員）については委員会での承認等の審議はなく、出版事業委員会より回答済み。

その他、次回 2006/2/2 開催 A 部門研究調査運営委員会までに H18 年度研究会予定を提出する必要があるので、各委員会 2 号委員に依頼する。

３．資料 180-2 について

委員会名簿である。変更：中坊委員、勤務先：技術開発研究所　材料研究センター→材料研究所　機能材料研究センター

４．資料 180-3 について

環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会議事録である。鈴置委員より、ポリ乳酸を用いた電線作製例、プリント配線との共同開催他について活動報告がなされた。

５．資料 180-4 について

田中幹事より新規調査専門委員会（高分子材料と放射線の相互作用評価技術調査専門委員会）の設置趣意書（案）について説明がなされた。特に企業の方にご参加を依頼したい。設置が承認された。一部字句修正後、一般公募様式を沿えて、次回運営委員会 2/2 に提出する。

６．資料 180-5 について

H18 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定である。0 次案について田中幹事より説明がなされた。

・ ナノコンポジット、ポリマーがいし、情報通信、帯電関連の 4 件の研究会を追加。
・ 技術委員会開催予定（5 回）: 5 月（見学会)、8 月、10 月、12 月（見学会)、2 月あるいは 3 月。
・ 特集号への論文化企画を検討。

７．資料 180-5 について

フォローシートについて、田中幹事より説明がなされた。技術報告の未提出（高電界電気絶縁、ポリマーがいし）があるので問い合わせる。

８．資料 180-6 について

研究会（国際会議報告）実施案について田中幹事より説明がなされた。国際会議報告および学際分野関連＆技術紹介（案）を検討中である。

（学際関係）医療・バイオ関係を導入した。

（規格関係）CIGRE 関係：長尾委員に依頼。IEC 関係：山野委員、清水先生（名城大)。

（国際会議）ISEIM 報告、高橋秀俊氏（電中研）に依頼。

3/2（木）13:00-16:00 電気学会（市ヶ谷）にて開催予定。

９．資料 180-8 について

2006 年度家田賞および矢作賞投票結果について、内田幹事（表彰委員会委員長）より報告があった。審議の結果、家田賞：高田達雄先生、矢作賞：関井康夫先生で承認された。委員長より連絡する。来年度絶縁シンポジウムにて表彰する。次回 3/2 技術委員会。表彰委員の半数程度の改選を検討する。

１０．資料 180-7 について

技術委員会の再編について岡本委員長より説明がなされた。３名の大学関係の１号委員の退任の合意が得られ、大学、材料メーカ、機器・ケーブルメーカから、技術委員会の将来構想に沿った委員を出していただきたい。

- 電線メーカでは合併した 3 社（電力関係等）と残った 6 社（環境、通信技術等）では方向性が異なる。→そのような観点から、今後の方針を委員会でご議論願いたい。出席可能な若手の委員を出して頂くという方向性でも良いのではないか。
- パワー半導体の絶縁等について、学術的な観点から検討する調査専門委員会の設置をお願いしたい。
- 技術委員会のあつかう内容の幅を広げて行かないと縮小方向になる。
- 現在のニーズ（パワエレ、電子部品等）に関心を向けて欲しい。→本来の技術委員会の役割だがニーズが出てこない。→ユーザが少ないためではないか。不具合はユーザから聞き出せる。
  - フランスではレビン先生のグループが中立な立場で研究を行っている。
  - プリント基板（山野委員）、エレクトロニクス実装学会（津久井先生）ではデータを出している。
- 全ての分野を網羅できないので、他のグループ（技術委員会）との連携も含めて、再編を議論する必要あり。
- 技術委員会では、運営だけでなく、調査専門委員会の動向も含めて技術について議論をすべき。

すでに 3 回程度にわたり議論しているので、新任委員候補について幹事団より打診し、具体案を次回委員会に提出予定。

１１．次回委員会について

日時・場所：2006 年 3 月 2 日 10:00~、電気学会。

以上。